

開拓と農業振興の歴史を踏まえ、時代の変遷に伴うコメ依存型農業からの脱却に取り組んできた太田町。町の農業発展を支援するための拠点「農業振興情報センター」を核とし、町出身の新規就農希望者を、質の高い地域の担い手として育成する取り組みが図られています。

足腰の強い 農業後継者を育てる拠点「新規就農者研修施設」(太田町)

開拓、農業振興の精神が
コメ偏重脱却に取り組む

魅力ある農業の展開を
めざし拠点施設の設定

東には奥羽山脈の一〇〇〇
m級の山々がそびえ、そのす
そ野に広がる県内有数の穀倉
地帯である仙北平野の東南部
に位置する太田町。

古の時代(江戸時代初期)

から農地開拓が農業用水の確
保とともに進められ、町の歴
史は開拓、農業振興の歴史と
言っても過言でない。広大な
原野の開拓に挑んだ先人達の
弛まぬ努力は、基幹産業であ
る農業の生産基盤を築いてき
ました。

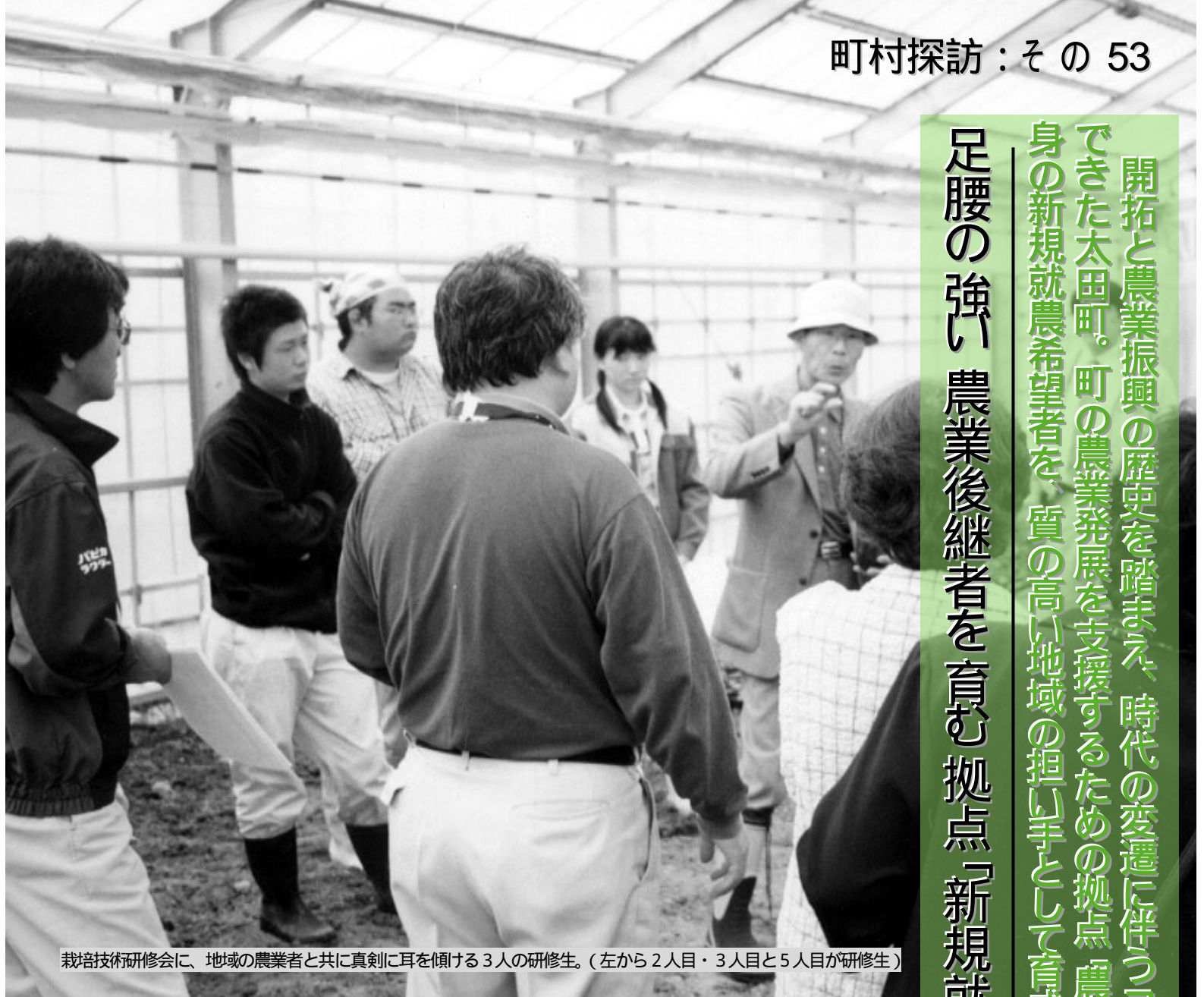
昭和33年には全国初の村
営圃場整備に着手。コメを基
幹作物として発展してきまし
た。生産調整を契機に土地
利用型を主とした野菜、花卉
を重点とした産地化の形成
複合経営の推進に力を入れる
など、他の地域に先駆けてコ
メに偏った農業からの脱却に
取り組んできました。

平成10年2月、町では兼ね
てから町の農業者などから要
望があった、町の農業の発展
を総合的に支援する拠点施設
として、「太田町農業振興情報
センター」を設置しました。

同センターは、町による運
営となっており、所長(非常
勤)ほか、町職員(常勤)が
1名と地元JAからの派遣職
員(JA業務兼務)1名、さ
らに農業の技術研修や栽培講
習会などの講師として指導を
行う「農業専門技術員」を県
の地域農業改良普及センター
OBに委嘱、回普及センター
や県農業試験場、JAなどの
関係機関と連携のもと運営に
当たっています。

開設以来同センターは、生
産性の高い農業を展開するた
め、戦略作物や新規作物の試
験栽培、気象情報や営農情報
の受発信、農業後継者の育成

栽培技術研修会に、地域の農業者と共に真剣に耳を傾ける3人の研修生。(左から2人目・3人目と5人目が研修生)





収穫まで2年かけてつくられ、独特の香りと柔らかさが特長である町の特産品「横沢まがりネギ」の種まき作業をする研修生。

支援 町農業者への技術研修や栽培講習会の開催など、「魅力ある農業が展開されるまちづくり」をめざした複合営農の確立と安定を図ることを目的に取り組んでいます。

町出身研修生の育成支援 拠点 新規就農者研修施設

町では、農業振興情報センターの設置構想の当初から、町出身の新規就農者を育成支援することを掲げ、その準備段階として情報センターの活動や業務を通じて、新規就農者育成に伴うノウハウや研修体制の構築を図ってきました。

平成15年3月、国の補助を受け、大型鉄骨ハウス・パイプハウス計4棟（1棟120坪）、試験研修圃場90㎡と資材機材庫などを整備。

町出身の新規就農希望者を「研修生」として受け入れ、栽培技術の向上を図るとともに、地域農業の安定的発展を目指し、新規就農者や農業者への支援、消費者と生産者の交流などを図るための総合拠点として、『新規就農者研修施設』をスタートさせました。

主体的に取り組めるシス テムで就農時を疑似体験

研修期間は、4月から翌3月までの春夏秋冬の1年間。原則的に月曜日から金曜日の午前8時半から午後5時過ぎまで研修が行われます。

この研修では、自分が就農する際に取り組みたい野菜や花卉を、研修生自らの栽培計画により、作付から管理・収穫・出荷までの全てを研修生が主体的に行つよつになっています。

新規就農者がこの過程を実践していくことはなかなか難しいことではあるが、この研修では、たとえ栽培に失敗し

たとしてもリスクは町が背負うことになりませう。

したがって、新しい作物などの導入にも思い切つてチャレンジできることに加え、取り組みたい作物等が一作シミュレーション出来ることは研修生にとって大きな経験となるのです。

農業専門技術員 地域の 農家から実践技術を学ぶ

研修期間中の栽培技術等の指導は、前記の町農業振興情報センターの「農業専門技術員」が当たり、センター職員が全面的にバックアップする体制となっています。

初年度となった昨年は、20歳代前半の2名が研修を行い1名が即戦力として就農し活躍しています。

16年度は、取り組んでいる作物等の関係により昨年度からの研修生1名と、新たに2名（男女各1名）の研修生が取り組んでいます。

年齢は20から22歳の地元農家の後継者であり、中には県の農業試験場研修を受けた研修生や県立大短期学部農学専攻の研修生もいますが、知識は豊富で基礎的面は出来てい

ますが、いざ実践となるとなかなか上手くいかないのが現状です。

「ここでは、農業専門技術員や地域の農業者などから実践的で現実味のある話しが聞けるし、農業に関する色々な情報を吸収できるので非常に勉強になる。」とひとりの研修生が話してくれました。

太田町の農業発展の ための有益な先行投資

研修生が育て収穫した作物等は、JAを通じ市場出荷されるほか農業振興情報センター内に併設の農産物直売所でも販売されます。

研修生には、その対価は一切入りませんが、町から研修に必要な関係参考図書や、作業着などの購入経費、栽培試験研究に伴つ必要経費としてひとり毎月10万円を支給しています。

研修事業を担当する農業振興情報センター職員は、「新規就農者がいきなり現場に出るのはリスクが大きいです。研修生として経験を積んでもらうこと

が大切だ」と話します。そのためリスクは町の負担が伴いますが、足腰の強い、レベルの高い農業後継者を地域の担い手として送り出すことが太田町の農業発展のためには有益なる先行投資と言えます。

太田町を含む1市7町村はこの3月22日合併して大仙市となります。合併協議会ではこの事業を継続していくことになっていますが、今後大仙市全体の事業として検討されることとなります。

太田町が確立したこの新規就農者研修事業の取り組みが新たな市の農業発展のための優良事例として受継がれていくことに注目したいところです。



「将来は専業農家として自立し、地域の農業を担っていきたい」と話す今年度研修生の3人。（左から小松さん・石崎さん・仲村さん）